

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970700179		
法人名	社会福祉法人 栲の木福祉会		
事業所名	グループホーム はまゆう		
所在地	高知県四万十市井沢37-3		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地震による津波を想定して、平成26年2月に井沢地区に高台移転しました。井沢は住宅地の一角にあるため、外での行事はできにくくなりましたが、団地という利点もあり、近所の方々が野菜や魚などを持ってきてくださり、行事の際には手作りの寿司等を持って行ったりと、1軒の家としての付き合いができています。日常的には、行事等は併設施設と合同で取組み、交流をしながら毎月の行事のほかに、買い物に出かけたり、関連施設で行われている3日体操や喫茶に出向き、外出支援と幅広い活動の場を作っています。入居者様の残った能力を活かせるケアを常とし、安心でき居心地のよい生活が送れるよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokansaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;IgyosyoCd=3970700179-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokansaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;IgyosyoCd=3970700179-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年10月24日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

防災のために高台に転居して一年に満たないが、地域に溶け込むために積極的に地域の行事に参加したり、運営推進会議の機会に事業所を理解してもらうために運営上の提案や相談をして、地域との関係作りを行っている。また、以前の施設周辺に出かけて、利用者の安心感とこれまで培った地域との関係性を継続するなど、転居に対する利用者の心理的なケアも行っている。

職員は利用者へ丁寧に声をかけ、引き継ぎノート等を活かして利用者との関係作りや思いの把握に努めている。管理者は職員が互いに遠慮なく意見を言い合える関係になることを心がけ、職員も会議や随時の話し合いで活発に意見を出している。また、法人は職員研修に力を入れており、法人内の研修だけでなく、出来る限り多くの職員が外部の研修に参加出来るよう取り組んでいる。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の理念が含まれていることを職員が理解できており、理念に基づいたケアの提供を基本としている。職員会等で、度々啓発し意識づけをしている。	その人らしく暮らせる環境と信頼感のある人間関係を作り、地域と協同していくという理念を作成し、職員会等で理念の理解や意識づけをしている。日々のケアでは、居心地のよい環境作りと地域の行事等への積極的な参加により、事業所と地域の協同関係を築くように努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域である防災訓練や花火観賞会に参加させてもらったり、地域の方が魚や野菜を持ってきてくれたり、行事の時に作った寿司等をすすそ分けしたりの近所付き合いをしている。	転居後から積極的に地域に溶け込む努力をし、事業所の近隣の土地を無償で借りて畑作りを始めている。地区集会所の活動へ参加し、地区の改善の話し合いで提案をしたり、民生委員が地域住民と事業所見学を訪れる等、交流関係ができています。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験学習の実習生の受け入れなどをしてグループホームの啓発をしている。	/	
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況について報告を行い、意見やアドバイスをいただいたり活発な意見交換はできており、職員会で報告し次に繋げている。	事業所の運営や現況の報告だけでなく、参加者との地域情報の交換が、事業所の運営や地区の改善の話し合いにつながる等、運営推進会議が地域との関係を作るきっかけになり、活発な話し合いが行われている。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度、運営に関して相談することがあるが、いつも早くアドバイスをいただいている。	利用者の自己負担金について保険者の方針を聞く等、制度や運用面の疑問点等について、気軽に市担当者に関わり合いができる関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に代表職員が参加し、職員会で報告をし共通理解に努めている。安全面を第一に考えながら自由に生活できるように支援している。	所内や法人の年間研修計画で身体拘束の弊害等を学び、所内では言葉のかけ方の工夫等について話し合っている。運営推進会議では利用者の不穏による外出事例と対策を報告し、拘束のない見守りのあり方等を協議している。家族とはリスクについて話し合い、身体拘束をしないケアへの理解を求めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表職員からの研修伝達で、理解や取り組みができています。日々のケアの中で職員のストレスが溜まり心のゆとりが必要と思われたときには、全員で話し合い、業務内容の見直しを図るなどして仕事のしやすい環境を整えている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が権利擁護に関する研修に参加し、その後の職員会で報告しており、大まかな理解はしていると思われるが、現在活用事例はない。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアに関する考えや取り組み、理念を重要事項や運営規定等を用いて説明し、納得していただいている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は用意しているが意見はなく、面会に来られたときに話を聞いている。	家族会は定期的な開催はしていないが、年3回、季節の行事へ家族の参加を呼び掛け、その機会に家族会として話し合いをしている。毎月の事業所便りに利用者の様子を記載することで、家族から少しずつ希望や意見が出るようになってきている。	家族が事業所に遠慮して言い出せないでいる希望や意見を汲み取るために、家族だけの話し合いや、無記名アンケート等、匿名で意見等を表せる方法の検討と実施を期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会で出た意見等を聞き、解決できることは取り組み、特別なことがある場合は法人の代表者に相談し解決に導いている。	毎月の職員会や随時の話し合いで職員の意見を聞き、業務内容や勤務体制の見直し・検討を行っている。事業所単独で解決できない問題は、法人の管理者会で提案し、業務内容の変更等につなげている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各事業所の現状がわかるように管理者会や代表者会を月に1回開き、現状把握、困難な事の解決に向け取り組んでいる。また各事業所を回り、職員の就業状態を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人材育成部を設立し新人職員には随時新人研修や、外部より講師を招き法人全体で職員の資質向上に向け取り組んでいる。又、資格取得に向けた支援を行うと共に年1回職員採用試験を実施している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でも3つのグループホームがあり、毎月管理者会を開き現状報告を行っている。また四万十市のグループホーム連絡会も4カ月に1度各施設持ち回りで会を開き、情報交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活歴や環境などから情報収集し、会話のきっかけ作りをしている。入居当初は会話や関わりを多く持ち、一人にしないよう配慮し、職員との信頼関係づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者さんとの間柄や関係を職員が理解し、家族さんの悩みもじっくり聞いて、ケアに反映している。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者さんの希望や、家族さんの要望を聞きケア現状を把握したうえでケアプランに活かしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんと密に関わり、話をする中で、共に笑い、楽しみ、時に涙することを普通にできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	職員をクッションに関係修復してもらうよう取り組んでいる(親子関係が良くない場合)。		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	隣の小規模多機能型事業所を、夫・姉・息子さんが利用されている時はどちらかが会いに行くようにしている。時々は馴染みの場所にもドライブに出かけている。	小規模多機能型事業所が併設されているので、それぞれの利用者同士の交流があり、顔見知りや家族と会う機会がある。また、本人や家族の希望で自宅付近へ出かけたり、ほぼ毎日スーパーに出かけて知人と出会える機会を持つなど、関係継続の支援をしている。	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	入居者さん一人一人の性格を把握して、状態に応じた対応をしている。		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退去後も家族様の来園があり、その後の様子を聞くことができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	自分の思いや意向を伝えられる入居者さんとはゆっくり話を聞き、困難な利用者さんとは、家族さんと話し合いながらケアに反映している。	利用者や家族と話す中で、事業所での暮らしに対する思いや意向を聞いて把握しており、馴染みの場所への外出等につなげている。	利用者の言葉や家族からの情報をより多く収集し記録することで、職員間の共有とケアの充実につながるので、センター方式等の様式も参考に、広く利用者情報を収集し記録することを期待したい。
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	利用者さんや家族さんに、今までの生活環境や職歴、趣味等を総合的に聞き把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は日常生活の中での変化や、定期の通院引き継ぎや記録に目を通すことで、入居者さんの日々の状態を把握するようにしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は、家族さんに今の現状を伝え意見や思いを含んだケアプランを立案している。	利用者それぞれの担当職員や計画作成担当者を中心に利用者、家族、医療等関係機関から情報収集し、現状やモニタリング結果を参考に本人・家族、また職員で話し合い、計画を作成している。また、計画の実践状況を見ながら定期、随時に見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の中での変化は個人記録に記入し、特別変化時は業務日誌や職員引き継ぎ簿に書き、全職員が周知し対応できるようにしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時に家族さんから、入居後本人さんより少しずつ話をしてもらい、好きな事・興味のある事、楽しいと感じる事を把握し、笑顔が見られるような支援をしている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある小学校よりの訪問を受けたり、スーパーに買い物に出かけたりと生活を楽しむ事ができている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の通院で入居者さんの身体状況を把握でき、主治医とは何でも相談できる関係を築いている。	入居以前からのかかりつけ医を受診する利用者が多く、家族にも協力してもらい、主として管理者が定期受診に付き添っている。受診結果は管理者等から職員が確認して、個人記録に記入し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が来ている。通院時や入居者さんの身体状況を報告し、体調が悪い時は連絡し指示をもらっている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合は様子を伺いに行くようにしている。医療機関との連絡を密にとることで退院の日程調整や退院後の生活指導も受けている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期、重度化について説明し理解を得ている。必要時にはチームケアができるように入居者さん、家族さんの意思を確認しケアに取り組みたい。	入居時に利用者・家族から終末期の意向を聞き、その後の状態変化で他の福祉施設等への入所を話し合った利用者はあるが、事業所に入居後は、利用者の終末期についての具体的な話し合いが、継続されていない。	入居後の利用者の身体状況の変化に伴い、利用者や家族と継続的に終末期の意向の確認や話し合いを行い、併せて職員間でも看取りについての話し合いや準備を進めることを期待したい。
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを置き、勉強できるようにしている。また救急救命の方法の研修を受けたり、AEDを設置し対応できるようにしている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の訓練にも参加し、運営推進会議でも話し合い、地域の協力体制を築いている。施設内でも小規模な訓練を重ねることで、臨機応変に対応できるよう備えている。	毎月1回、併設の小規模多機能型事業所と合同で火災想定避難訓練を実施している。年に1回消防署が協力して行う防火訓練には、地域住民が参加している。また、地域の防災訓練には事業所から参加している。消火器の設置や点検、非常用食料の3日分以上の備蓄ができています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さん個々の性格を把握した上で言葉かけ等に注意したり、ケアを提供する中でプライバシーには十分配慮している。	利用者個々の性格や思い等に沿って、人格を尊重した言葉かけを心がけている。日々の記録は居間の一部で、利用者を見守りながら行っているが、書類の取り扱いに注意し、書類は所定の場所で保管することを徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる入居者さんには促し、本人の希望を聞きできることは支援しているが、できない方は表情や態度で気持ちを汲み取っている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを尊重し、希望に合った対応を心掛けている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族さんの準備した衣類をバランスよく着回しできるように心掛けている。起床時声掛けをし、好みの服を選べるようにしている。時には職員と共に好みの服を買いに出かける入居者さんもいる。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの好みを把握し、個々に合わせた食事形態にして提供し、楽しい雰囲気ですぐに食事が摂れるよう工夫している。可能な入居者さんには食事の下準備や味付け、盛り付け、片づけ等職員と一緒にできるようにしている。	献立は職員が利用者の希望等を取り入れ、魚や肉が偏らないように作成している。3か月に1回は栄養士に献立の内容を点検してもらい、助言を受けている。食事は職員と一緒に取り、準備や片づけの可能な利用者は自分の役割にして手伝い、家庭的な雰囲気ですぐに食事を楽しんでいる。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表、食事摂取量を毎日記録し、安定した水分や食事が摂取できるよう努力している。3か月ごとに栄養士による指導をもらっている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に行い、週1回はポリデント消毒している。拒まれる方や介助が必要な方は職員が行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン(時間・尿量)に応じた尿取りパッドの検討を行い、自力排尿を促し定時のトイレ誘導を行っている。	職員が見守りながら、トイレでの排泄が自分でできる利用者が半数近くいる。トイレ介助が必要な利用者は排泄パターンを把握して、出来る限りトイレでの排泄ができるように誘導や介助を行い、自立に向けて支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎朝のバナナ摂取や牛乳、ヨーグルトを摂取したり、運動の促しをしている。便秘症の方には便秘薬の処方を受け、服用管理している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴をしたい方は、少し早めの始めと、一番最後に入ってもらい、入浴を拒む入居者さんにはこれまでの生活習慣や拒む理由を確認しながら声掛けするなど工夫をしている。	入浴時間は基本的には午後であるが、順番や時間を工夫し、利用者個々の希望や好みに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者には、時間や曜日の変更や、誘い方を工夫して対応している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動状態によって個別に休息を勧めたり、居室環境を整えるなどして安眠に繋げている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については薬剤情報紙を確認し、処方変化があった時は、職員の引き継ぎにて周知するようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動の促しをしつつ、毎月行事を入れ支援している。歌やレクリエーション、散歩の好きな方がそれぞれおられ、個別に対応している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望があればその都度職員と共に外出したり、近くの公園に日課で散歩したり、関連施設での3B体操や喫茶に出かけている。希望がある時はその都度対応している。	毎日スーパーや近隣の公園に出かける利用者や、菓子類の購入希望で週に1～2回買い物に出かける利用者がある。歩行が困難な利用者も車椅子で近隣へ散歩に出かけ、月に1回程度のドライブや外食には全員で外出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんからの小遣い預かり金のほかに、自分で管理している方もいる。買い物と一緒にいった時は、自分で支払いができるよう支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物が届いた時は、電話をかける習慣を付けている。家族さんが遠方でなかなか会えない入居者さんについては、定期的に電話をかけたり、かけてもらうよう話をしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所は特に衛生面、清潔面に配慮しつつ、居心地の良い空間づくりを心掛けている。季節のタペストリーや花を飾ったりして、季節を感じてもらっている。	居間には、季節の花を飾った食卓を中心に、利用者が一緒に洗濯物をたためる畳スペースがあり、また食事作りの台所の様子が匂いと共に家庭的な雰囲気を伝えるなど、利用者が居心地よく集える場所になっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでも自由にソファーに座りくつろげるよう配慮している。一人になりたい時は居室で過ごしてもらっている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使っている馴染みの物を持ってきてもらい、写真や好みの物を置くことで居心地の良い居室を心掛けている。	それぞれの居室には、大小の筆筒等、馴染みの家具や写真が貼ってあり、その人らしい居心地のよい居室にしている。今回の転居時に家族の希望で、持ち物を整理して過ごしやすくした居室もある。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さんの能力や使い勝手に合わせて利用できるよう勧め、常に個々の身体レベルを分析していきながら、支援方法を職員間で考え工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				